



中村正・秋田屋本店社長

岐阜市北部、椿洞の岐に花を求めて移動する岐阜市畜産センター公園内、地養蜂の中間点であるこの南端に博物館「みつばちの家」とからも、養蜂及び養蜂の家」があります。

岐阜県は近代養蜂発祥の地と云われ、明治時代

の中期に欧米から導入された西洋ミツバチを飼育する養蜂業が芽生えた地であり、さらに県花であるレンゲの一大産地、良質のレンゲ蜜が大量に採れた養蜂業の本場でありました。地理的にも日本

の中心地であり、わが国の養蜂業の特徴である南から北へミツバチと共

博物館「みつばちの家」



なかむら・ただし 1951年、岐阜市生まれ。博士(医学)。みつばちの家理事長。岐阜県畜産センター公園内、市畜産センター公園の「みつばちの家」の解説模型。岐阜市椿洞、市畜産センター公園内の「みつばちの家」

長きに亘り、博物館と屋敷で国際養蜂会議が開催されてきた折には多数の海外養蜂家はじめ関係者が訪れ、わが国養蜂のシンボルとしてその名を世界に轟かせました。しかし最近では開館以来35年が経ち、建物の老朽化や展示物が古びて、入館者も減少してしま

た。岐阜県のレンゲは栽培場岐阜県の復活へのチャレンジの第一歩として象徴である「みつばちの家」をリニューアルすることになりました。

展示されているミツバチの解剖模型。岐阜市椿洞、市畜産センター公園内の「みつばちの家」

養蜂の地復活へ一新

に亘り、手づくりの作業をの家のさらなるグレイドアップに関係者一丸となり努める所存です。